

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1)担当支部:	北海道支部	(2)記載者氏名:	漆崎 隆	会員番号:	13040	事務局整理記入欄	北海道 - 202
分水嶺区分:	海見平~H202雄鉾岳~岩峰コル	(3)山行日:	2005年	6月	5日	(4)天候	晴れ:積雪0m

(5)参加者氏名および会員番号				サポート要員氏名および会員番号			
中村 喜吉	10978						
漆崎 隆	13040						
漆崎 裕子	13041						
計				計			
3							

(6)山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	雄鉾岳登山口 海見平 H202雄鉾岳 雄鉾岳北峰 岩峰コル 雄鉾岳登山口												
アプローチ:	札幌 八雲 雄鉾岳登山口 (往復)												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	雄鉾岳登山口	砂蘭部岳	140	7	46.30	42	10	20.45	271		4:48		
分水嶺到達点	海見平	砂蘭部岳	140	7	3.20	42	9	5.49	939.1	10:14	10:30	A-2	(8)
H202	雄鉾岳	砂蘭部岳	140	6	59.13	42	9	14.32	999	10:40	11:20	A-2	(8)
	雄鉾岳北峰	砂蘭部岳	140	6	50.69	42	9	17.51	998	11:50	12:20	B-3	(9)
分水嶺離別点	岩峰終了コル	砂蘭部岳	140	6	42.96	42	9	24.44	812.4	16:03	16:05	B-3	(10)
歩行終了点	雄鉾岳登山口	砂蘭部岳	140	7	46.30	42	10	20.45	271	18:55		B-3	
総歩行時間(休憩時間を除く)												11時間30分	

(7)三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
H202	雄鉾岳	2		良好	明治42年6月12日撰点

(8)人工施設の現況および地形図との相違点

雄鉾岳に到る登山道の記載は地形図には無いが、八雲ワンダーフォーゲルによって夏道がつけられている。そのことは、ガイドブックにも記載されている。しかし、実情は沢登りといってもよいほどであった。さらに、上部には雪渓があり、滑落の危険性もある。雄鉾岳から北峰までは肩までの笹と灌木帯である。

(9)水および植生に関連した特記事項

雄鉾岳頂上は笹藪だが、綺麗に刈り込まれている。北峰は1000メートルに満たない道南の山にも関わらず、ハイマツが茂っていた。北峰直下にはお花畑があった。ハクサンイチゲ、キンバイ草、ヒメイチゲ、ベンケイ草、シンパク、ミネザクラ、ミヤマアズマギク、シラネアオイなどが見られた。しかし、このお花畑の記述は、どのガイドブックにも載っていない。したがって、自然保護の観点から報告はこの場だけのものとした。

(10)その他の特記事項

北峰からは40mの懸垂下降。その先に20mのピナクルがある。5,6人が立てるほどの広さ。北側は一部オーバーハングしており、30mの懸垂下降。ピナクルから続く尾根は幅30cmで両側は鋭く切れ落ちている。

(11)写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:
ピナクルの下降

山行報告書(続き)
表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。



ピナクルの下降